

環境審議会循環型社会構築部会報告

1 循環型社会構築部会開催日時及び出席者

開催日時：平成 29 年 12 月 5 日(火)15:30～17:00 アクロス福岡 6 階 606 会議室
 出席者：松藤 康司 委員 (部会長) 平 由以子 委員
 久留 百合子 委員 (職務代理人) 田中 綾子 委員
 中山 裕文 委員 松野 隆 委員
 阿部 真之助 委員 小出 秀雄 委員
 資料：参考資料 4-1

開催日時：平成 30 年 9 月 3 日(月)15:00～16:30 アクロス福岡 6 階 607 会議室
 出席者：松藤 康司 委員 (部会長) 平 由以子 委員
 浅野 直人 委員 (会長) 田中 綾子 委員
 中山 裕文 委員 松野 隆 委員
 阿部 真之助 委員 小出 秀雄 委員
 資料：参考資料 4-2～参考資料 4-4

2 平成 29 年度ごみ処理等の実績について

(1) 家庭ごみ

家庭ごみについては、人口が 1 年間に約 1 %程度増加する中、市民の 3 R への取組みなどで 1 人 1 日当たりのごみ処理量 (原単位) は順調に減少しており、処理量はほぼ横ばいとなっている。

(2) 事業系ごみ

事業系ごみについては、古紙や食品廃棄物のリサイクル量は増加傾向にあるが、入込観光客数の増加等により、ごみ処理量はほぼ横ばいとなっている。

3 ごみ減量の取組みに対する意見等

(1) 家庭ごみ

意 見	今後の対応等
地域集団回収の充実に向け、単身世帯マンションのみならず、ファミリーマンションにおいても、現在ごみとして捨てられている雑がみの資源化が進むよう取り組まれない。	古紙の簡略な出し方の啓発を行い、集合住宅での雑がみの資源化に努めていく。
雑がみ回収袋については、 ・サイズの再検討 ・専門学校でのコンペ等によるデザインの工夫 ・配布場所や枚数 等について、雑がみの資源化が広がるよう改良されたい。	雑がみが紙袋に入れて出せることを広め、雑がみの回収が促進されるよう、利用者の意見を踏まえながら工夫していく。

(2) 事業系ごみ

意見	今後の対応等
事業系古紙回収ボックスの活用については、古紙回収業者等が設置している回収ボックスの実態を把握するとともに、地域集団回収との競合及び管理運営上の課題について整理する必要がある。	回収ボックスの現状把握とともに、ボックスの活用が周辺地域に与える影響について慎重に検討していく。
古紙分別導入や搬入規制といった新たな施策については、十分な猶予期間を設けることに加え、モデル地区の設定等の施策を検討すべきである。	新たな施策の導入にあたっては、先行事例を参考に半年から1年程度の猶予期間を設けるとともに、効果的な施策の展開方法を検討していく。
清掃工場における古紙の搬入規制の導入にあたっては、実効性を確保するため、展開検査装置導入による搬入物検査の実施だけでなく、搬入禁止処分等の対象とする必要がある。	展開検査装置は、他都市の事例や経費面等も調査の上、検討していく。 古紙が分別区分に追加された際は、現在実施している搬入物検査や既存の受入拒否処分制度の適用対象となる“搬入禁止物”とすることを検討していく。
事業系古紙の資源化に取り組んだ事業者にインセンティブが働き自発的に取り組むような仕組みの導入を検討すべきである。	古紙資源化の取組みが進んでいる事業者の取組みの紹介や環境行動賞で表彰する等、インセンティブが働く仕組みの検討を行う。
経済状況の好転や交流人口の増加等のデータを示されたい。	入込観光客数、事業所数、ホテルや店舗等大型施設の入込客数等、ごみとの相関を示すデータの記載を行っていく。